

小規模多機能が介護を楽しくする

2009年10月17日 第14回全国ケアワーカー集会

パネル討論 第2部 コミュニティケアを創造する

ささえ愛あわやま管理者（現 いしやま ケアマネージャー） 神保桂子さん

平成15年、高齢者生協の立ち上げの運動を始め、運動が地域の皆と、平成17年7月にデイとショートを行う任意の福祉事業所「あわやま」を開業。組合員がボランティアとして運営した。

平成18年2月、ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟を設立。当時、組合員が400人余り。4月には、小規模多機能型居宅介護サービスの新潟の指定業者第一号として、「ささえ愛あわやま」を開業。

小規模で多機能のサービスが介護することを楽しくするものだった。

なににもまして、利用者や家族が私たちの介護を心より喜んで満足してくれるということを実感できた。やはりケアマネージャーがいつも身近に見守っていることは、大きな安心なのだと確信した。

それが2番目の事業所を開業するのに後押しとなり、平成19年12月、「ささえ愛きたかみ」につながった。

続いて広い土地と大きな家の提供で、3つめの「ささえ愛わりの」を今年4月に開業。利用者はまだ少ないので苦戦しているが、多機能のサービスに夢を賭けたケアワーカー立たちが頑張っている。

偶然だが、職員は20代～60代まで各年代にわたっている。これは豊かな介護につながるのではないか。

常勤者の中には、任意の事業所「あわやま」でボランティアをしていた20代の若者がいる。彼らは長い間、社会から閉じこもっていたが、ヘルパー2級の資格を取得し、仕事に取り組み、大きな成果を収めている。地元紙「新潟日報」でも紹介された。

職員はヘルパー2級でも、働いてから6カ月経てば1日リーダーを任せているが、それが成長を促している。また、介護全体を把握するのに、とても勉強になるという。

地域密着型サービスは、地域との連携の中で進められなければならないので、運営推進会議などで情報交換をしている。また、地域の医師には、往診や緊急時の搬送先の手配など、細かい配慮を頂いている。

そのことも利用者や家族に大きな安心になっていると思う。「ささえ愛」に見学に来た方の中には、自分たちの地域に「ぜひ小規模多機能を」と協議会をつくり、運動を起こした方がいる。「小規模多機能サービスについて考えてみませんか」と呼びかけ、現在は開業の準備を進めている。

私たちも出来るだけ手伝いをし、ともに支え合っていきたいと思っている。